

2017年7月31日  
株式会社日本政策金融公庫

## 第193回 信用保証利用企業動向調査結果の概要

(2017年4～6月期実績、7～9月期見通し)

**[概況] 信用保証利用企業の資金繰りは、引き続き改善している  
～景況は一部に弱い動きが見られるものの、持ち直しの動きが続いている～**

- 【金融関連】 ○ 資金繰りD.I.は、▲3.9とマイナス幅がやや縮小し、改善傾向が続いている。  
○ 借入難易感D.I.は、3.1とやや上昇し、3期連続でプラスとなった。  
○ 今期に借入を実施した企業の割合は、横ばい。
- 【保証利用】 ○ 今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、横ばい。  
○ 来期(17年7～9月)における保証利用要請D.I.は、2.6とやや上昇した。  
※ 保証利用要請D.I. …金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。
- 【生産等】 ○ 生産・売上D.I.は、0.9と上昇し、14年1～3月期以来のプラスとなった。  
○ 採算D.I.は、▲4.1とマイナス幅がやや縮小し、改善傾向が続いている。
- 【特別調査】 「信用保証協会を利用する際のメリットについて」  
○ 信用保証協会を利用する際のメリットについては、「融資が受けやすくなった」、「無担保で借入をすることができた」が多い。次いで、「低金利で借入をすることができた」、「長期の借入をすることができた」、「迅速に融資を受けることができた」、「保証人無しで借入をすることができた」と続いている。  
「制度融資について」  
○ 関心のある制度融資の分野については、「経営改善、経営安定(資金繰り支援等)」が最多、次いで、「設備投資」、「雇用、人材育成」となった。  
○ 業種別にみると、「経営改善、経営安定(資金繰り支援等)」はいずれの業種においても回答割合が高く、製造業以外の業種において回答割合が最多。  
○ 「設備投資」は、製造業、サービス業における回答割合が高く、特に製造業では業種内での回答割合が最多。また、「雇用、人材育成」は、建設業、サービス業において、「販路・需要開拓」は、卸売業、小売業において回答割合が高い。

<調査の要領> 調査時点 2017年6月中旬  
調査対象 9地域(北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡)の信用保証協会利用先  
16,000企業を対象としており、**回答企業の約78%が従業員20人以下の小規模企業**となっています。  
有効回答企業数 3,398企業  
回答率 21.2%

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 Tel:03-3270-2384(担当:辰口、野口、土田)  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

本資料は日本銀行内金融記者クラブ、経済産業記者会に同時配布しております。



## (1) 資金繰り

・資金繰りD.I.は、▲3.9とマイナス幅がやや縮小し、改善傾向が続いている。

		2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
資金繰りD.I.	実績	▲11.8	▲10.4	▲9.2	▲7.5	▲3.9	
	見通し	▲9.5	▲9.3	▲6.3	▲4.9	▲1.0	▲1.3

(注) 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

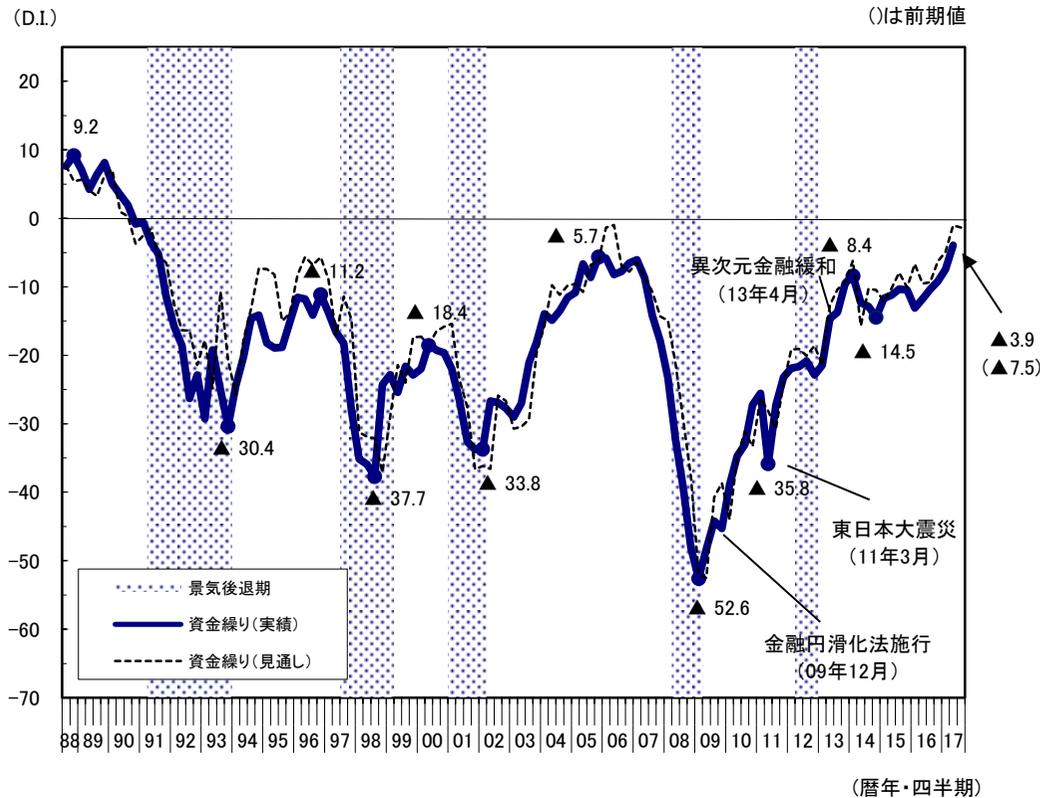
## (2) 借入難易感

・借入難易感D.I.は、3.1とやや上昇し、3期連続でプラスとなった。

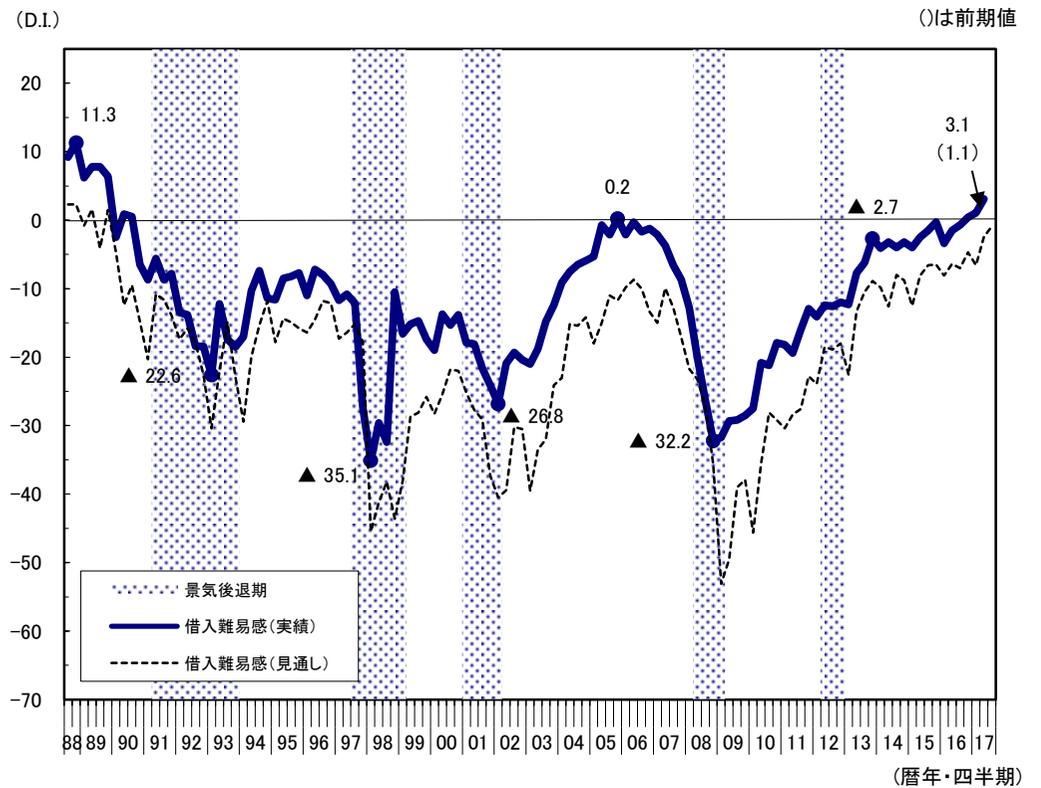
		2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
借入難易感D.I.	実績	▲1.5	▲0.7	0.4	1.1	3.1	
	見通し	▲6.4	▲7.0	▲4.7	▲6.6	▲2.4	▲0.9

(注) 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

### 資金繰りD.I.(季節調整値)の推移



### 借入難易感D.I.の推移



### (3) 借入状況

・今期に借入を実施した企業の割合は、横ばい。

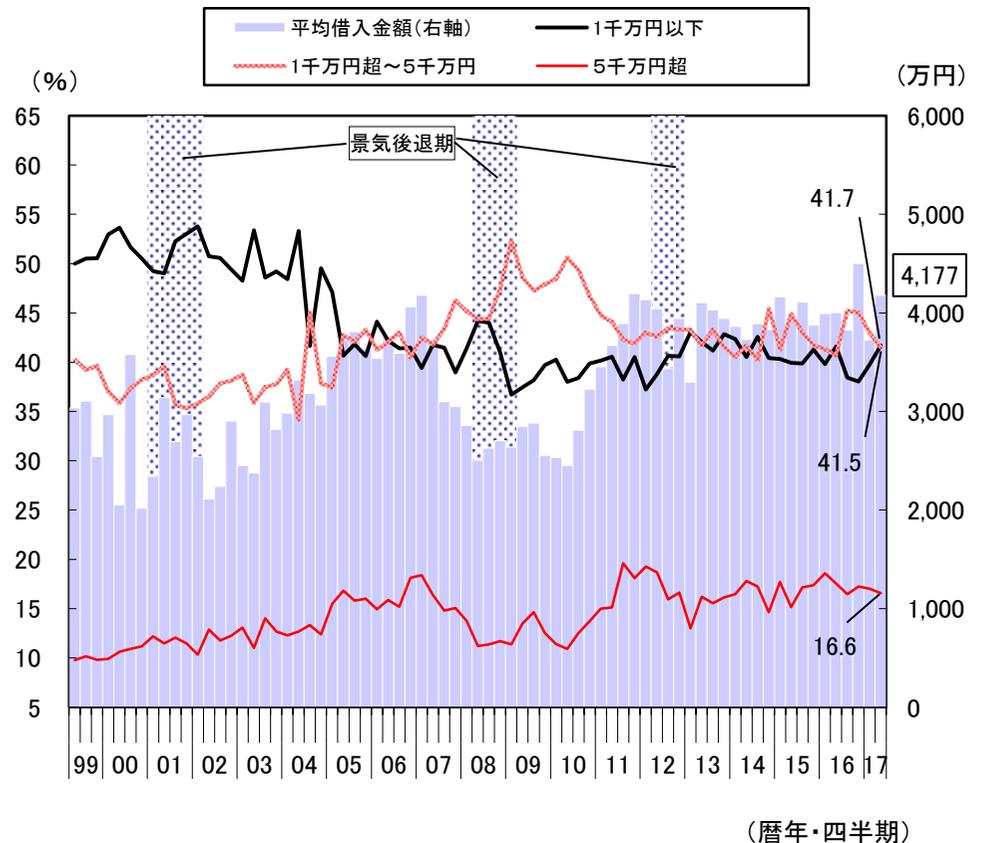
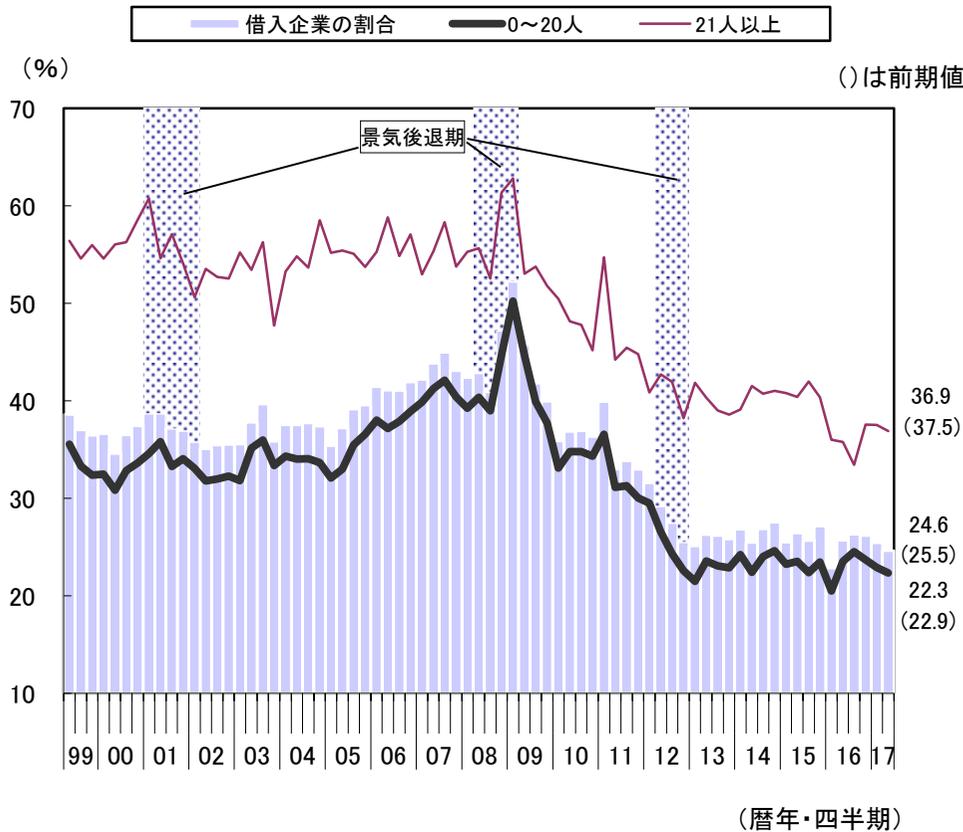
・一社あたりの借入金額別構成比は、「1千万円以下」がやや増加した一方で、「1千万円超～5千万円」がやや減少した。

① 借入を実施した企業の割合(季節調整値)

	2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6
借入企業の割合	25.7	26.3	26.2	25.5	24.6
0-20人	23.5	24.5	23.7	22.9	22.3
21人以上	35.8	33.4	37.6	37.5	36.9

② 一社あたりの借入金額別構成比(季節調整値)

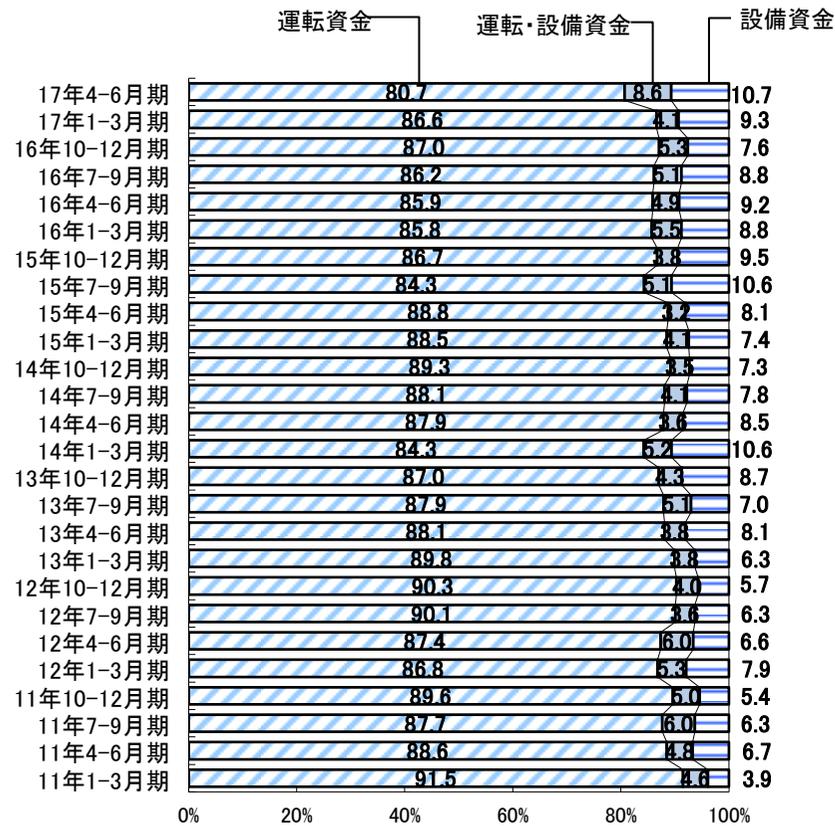
	2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6
1千万円以下	41.6	38.4	38.0	39.8	41.7
1千万円超～5千万円	40.7	45.2	45.0	43.0	41.5
5千万円超	17.5	16.5	17.2	17.0	16.6



(注)「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

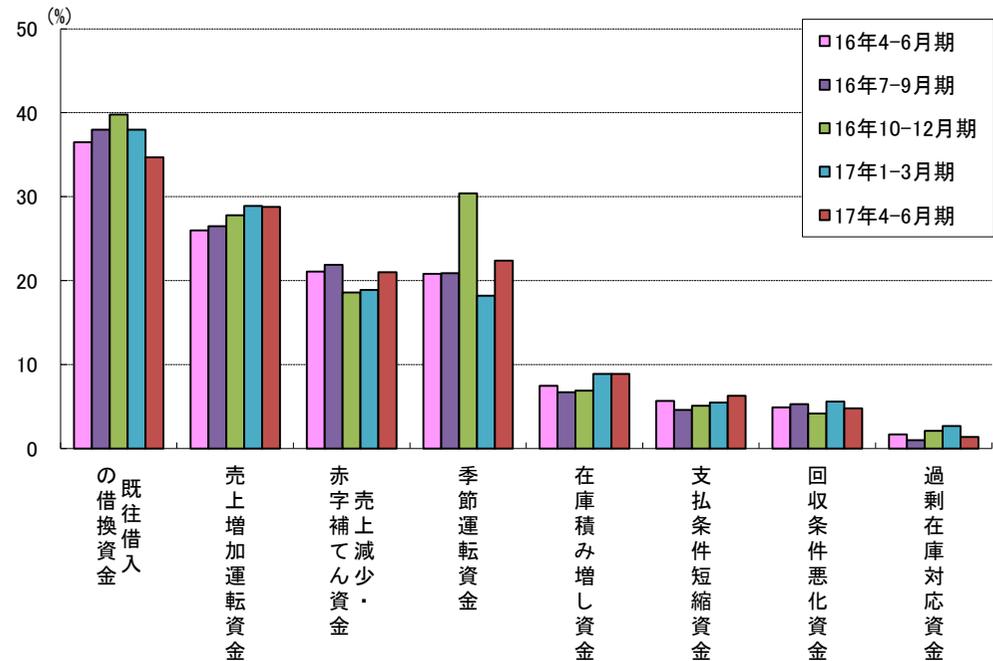
・資金使途については、設備資金がやや増加し、15年7～9月期以来、7期ぶりに10%を上回った。  
 なお、運転・設備資金と設備資金の構成比を合計すると、約2割となった。

### ③-1 資金使途の構成



### ③-2 運転資金の内訳

(原数値)	既往借入の借換資金	売上増加運転資金	売上減少・赤字補てん資金	季節運転資金	在庫積み増し資金	支払条件短縮資金	回収条件悪化資金	過剰在庫対応資金
17年	4-6月期	34.7	28.8	21.0	22.4	8.9	6.3	4.8
	1-3月期	38.0	28.9	18.9	18.2	8.9	5.5	5.6
16年	10-12月期	39.8	27.8	18.6	30.4	6.9	5.1	4.2
	7-9月期	38.0	26.5	21.9	20.9	6.7	4.6	5.3
	4-6月期	36.5	26.0	21.1	20.8	7.5	5.7	4.9



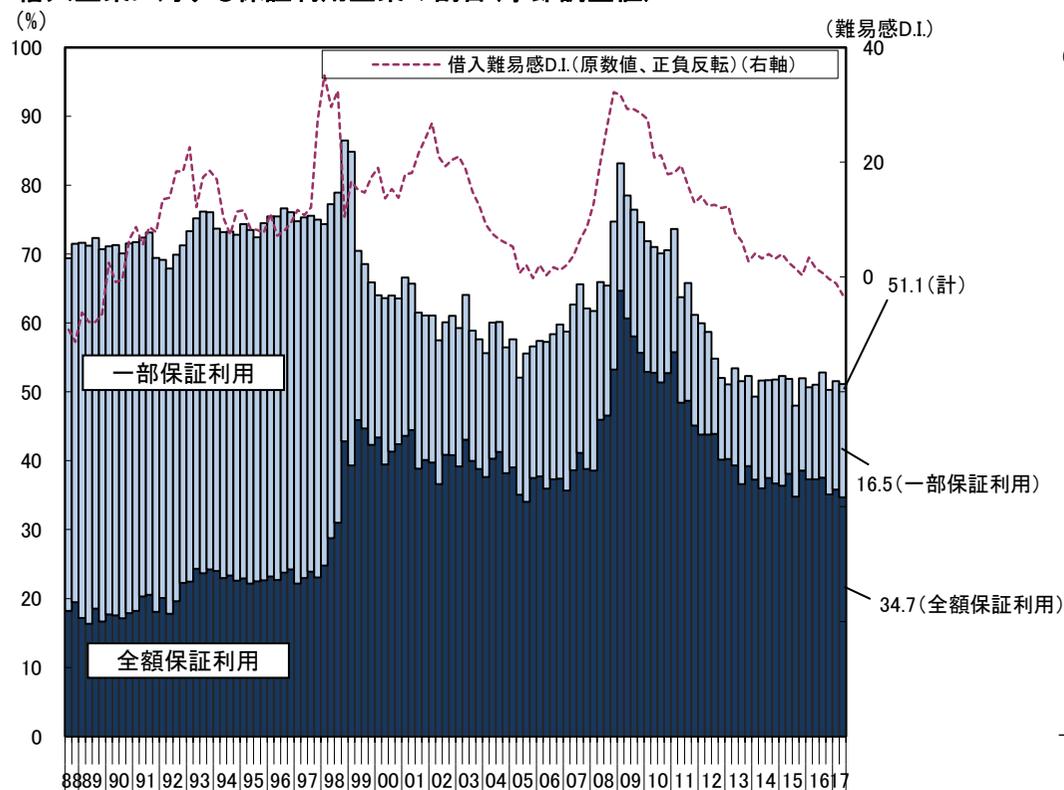
(注) 1.複数回答のため、合計は100を超える。  
 2.「資金使途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

## (4) - 1 保証利用状況

・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、横ばい。保証利用割合別にみると、「全額利用」はやや減少となった。

	2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6
保証利用企業の割合	51.0	52.8	50.3	51.5	51.1
全額利用	37.3	37.5	35.1	35.8	34.7
一部利用	13.8	15.3	15.2	15.7	16.5
プロパーのみ利用企業の割合	49.0	47.2	49.7	48.5	48.9

借入企業に対する保証利用企業の割合(季節調整値)



(暦年・四半期)

## (4) - 2 金融機関からの保証利用要請

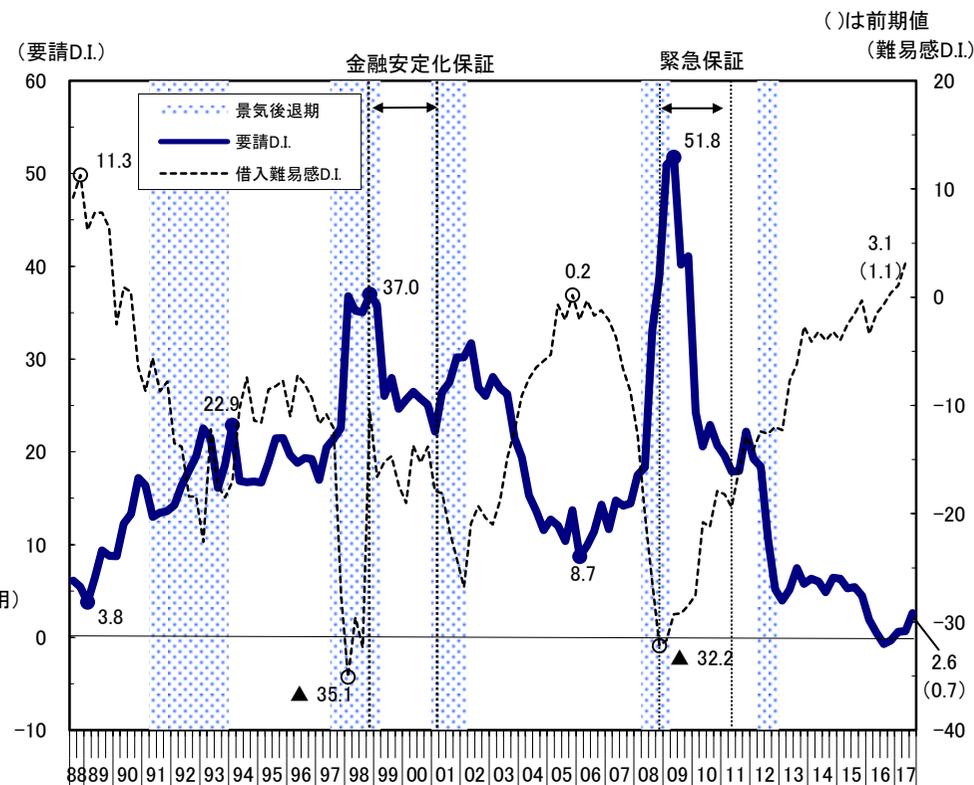
・来期(17年7~9月)における保証利用要請D.I.は、2.6とやや上昇した。

	2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
要請D.I. 見通し	0.5	▲ 0.7	▲ 0.3	0.6	0.7	2.6
借入難易感D.I. 実績	▲ 1.5	▲ 0.7	0.4	1.1	3.1	

(注) 1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合-「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。

2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D.I.(季節調整値)及び借入難易感D.I.の推移



(暦年・四半期)

## (5) 生産・売上

・生産・売上D.I.は、0.9と上昇し、14年1～3月期以来のプラスとなった。

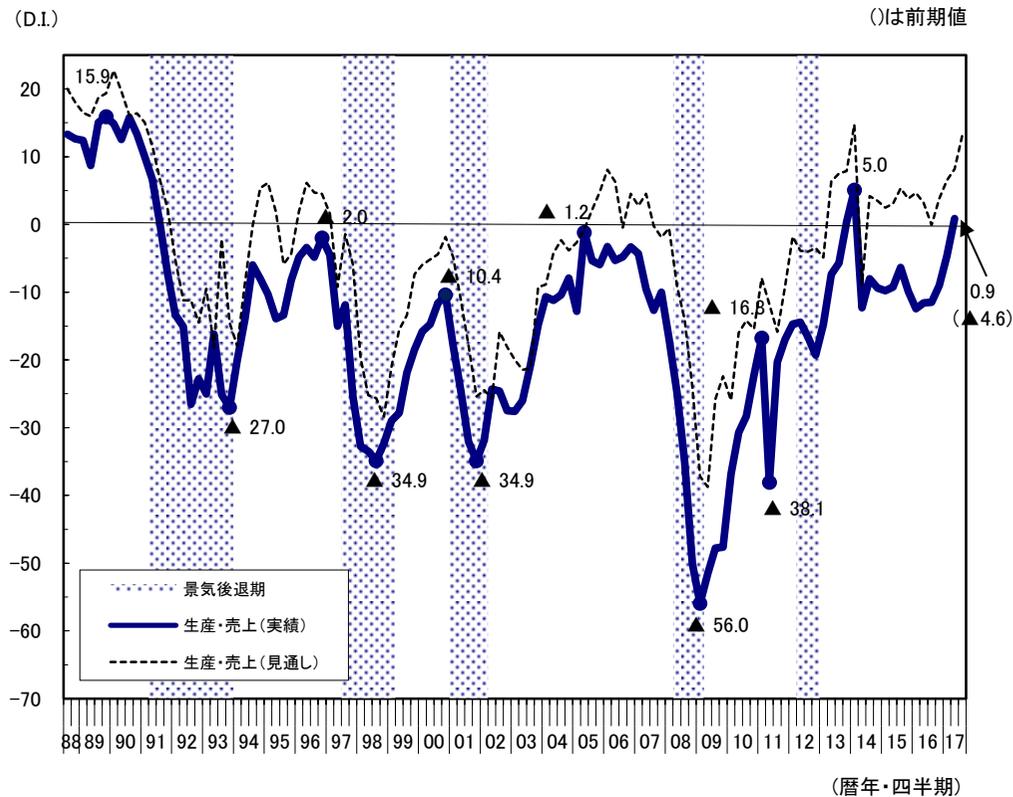
		2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
生産・売上D.I.	実績	▲ 11.6	▲ 11.5	▲ 9.0	▲ 4.6	0.9	
	見通し	3.2	▲ 0.1	3.8	6.5	8.2	13.1

(注) 前期比。生産・売上D.I.は、「増加」企業の割合-「減少」企業の割合。季節調整値。

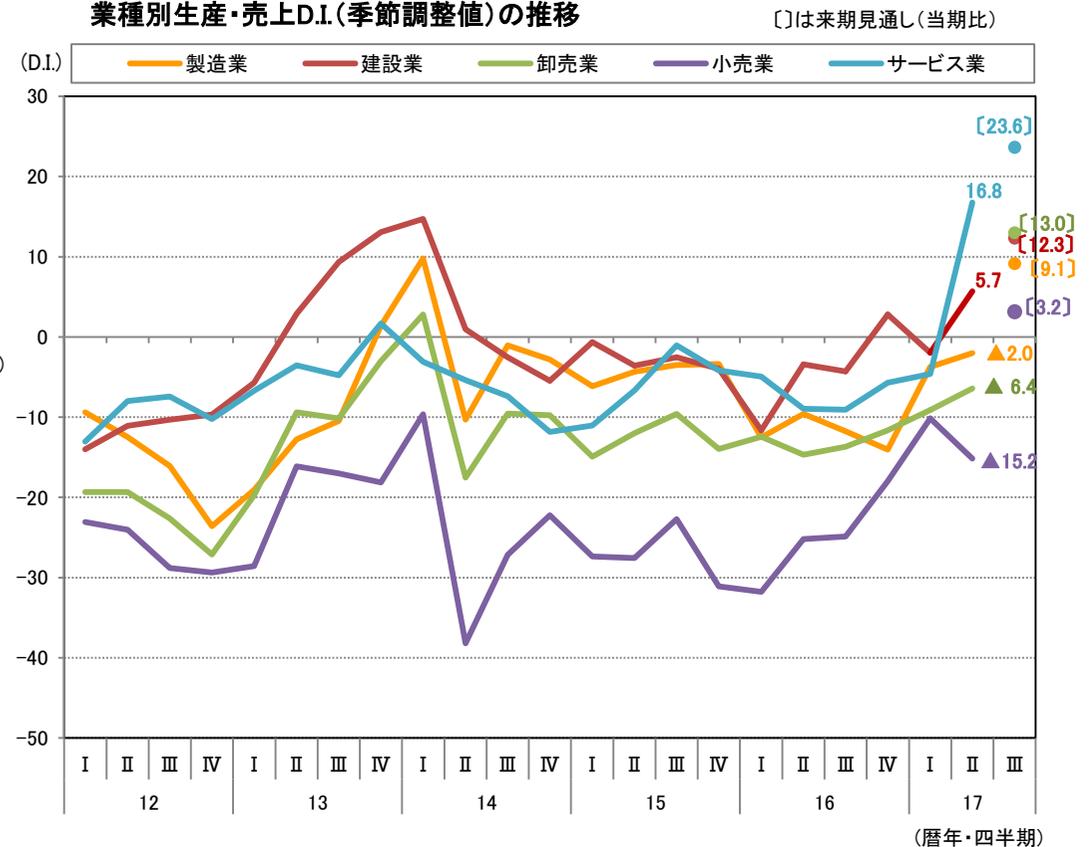
## 生産・売上(業種別)

・生産・売上D.I.(業種別)は、建設業、サービス業がプラスに転じ、製造業、卸売業でマイナス幅がやや縮小。一方で、小売業ではマイナス幅がやや拡大した。

### 生産・売上D.I.(季節調整値)の推移



### 業種別生産・売上D.I.(季節調整値)の推移

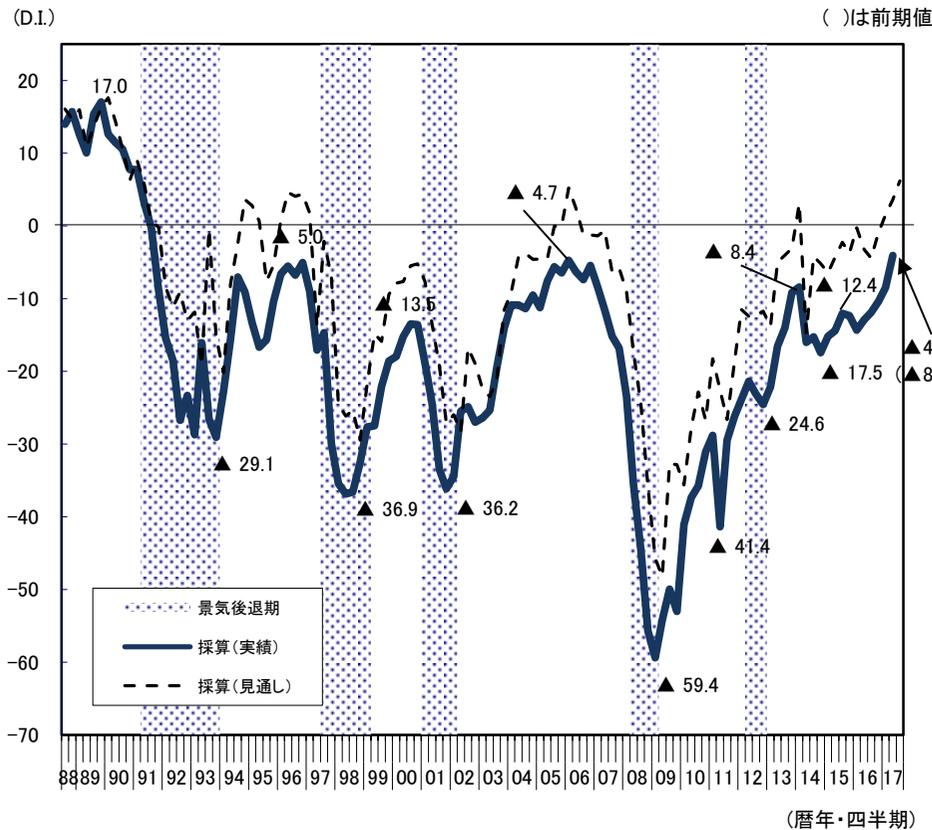


## (6) 採算

・採算D.I.は、▲4.1とマイナス幅がやや縮小し、改善傾向が続いている。

		2016/4-6	7-9	10-12	2017/1-3	4-6	7-9
採算D.I.	実績	▲ 12.9	▲ 11.9	▲ 10.4	▲ 8.5	▲ 4.1	
	見通し	▲ 3.3	▲ 4.4	▲ 0.9	1.5	3.6	6.2

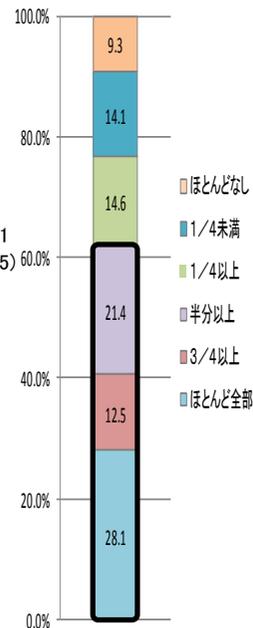
(注) 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。



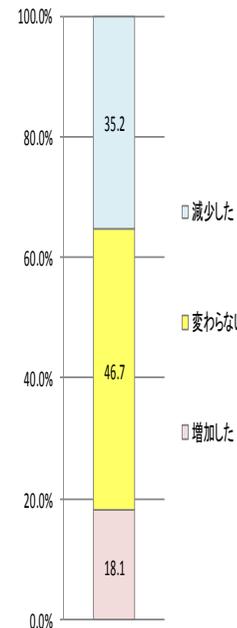
## (参考) 保証利用割合

- ・借入総残高に占める信用保証利用の割合については、半分以上と回答した企業が60%強となった。
- ・前年同期末と比べた信用保証利用の割合の増減については、減少したと回答した企業が約35%となった。
- ・借入総残高に占める信用保証利用の割合が少ないほど、前年同期末と比べて信用保証利用の割合が減少する企業が多くなる傾向がみられた。

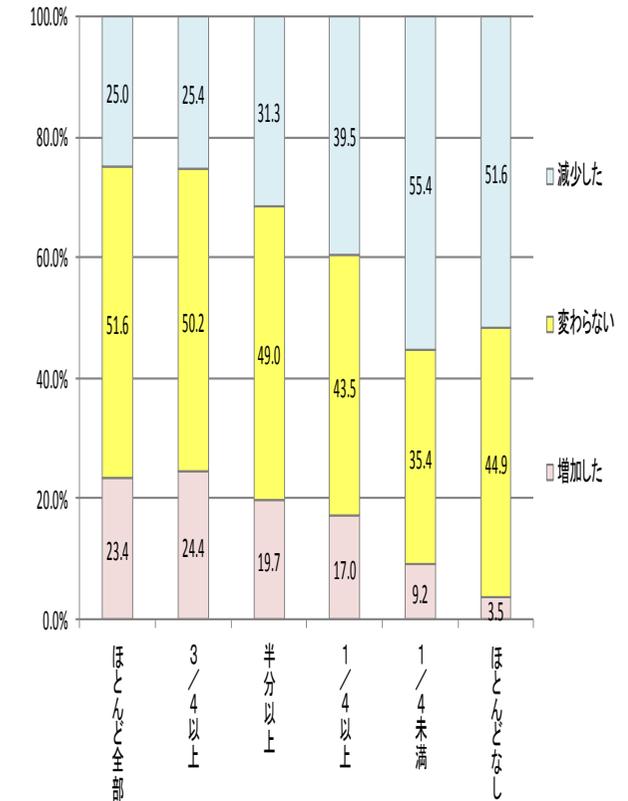
(1) 保証利用割合



(2) 保証利用割合の増減  
(前年同期比)



(3) 保証利用割合×保証利用割合の増減  
(前年同期比)

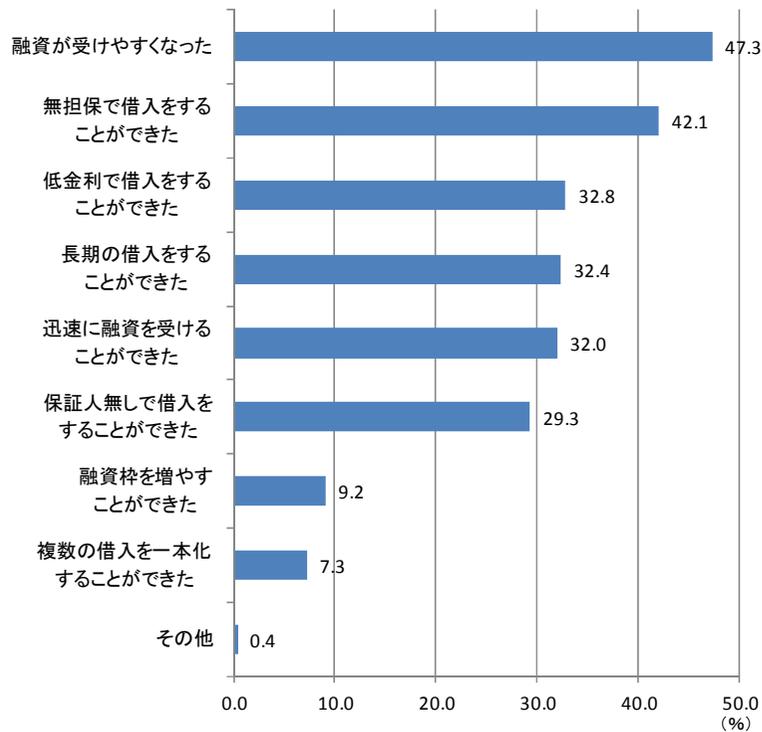


# 特別調査

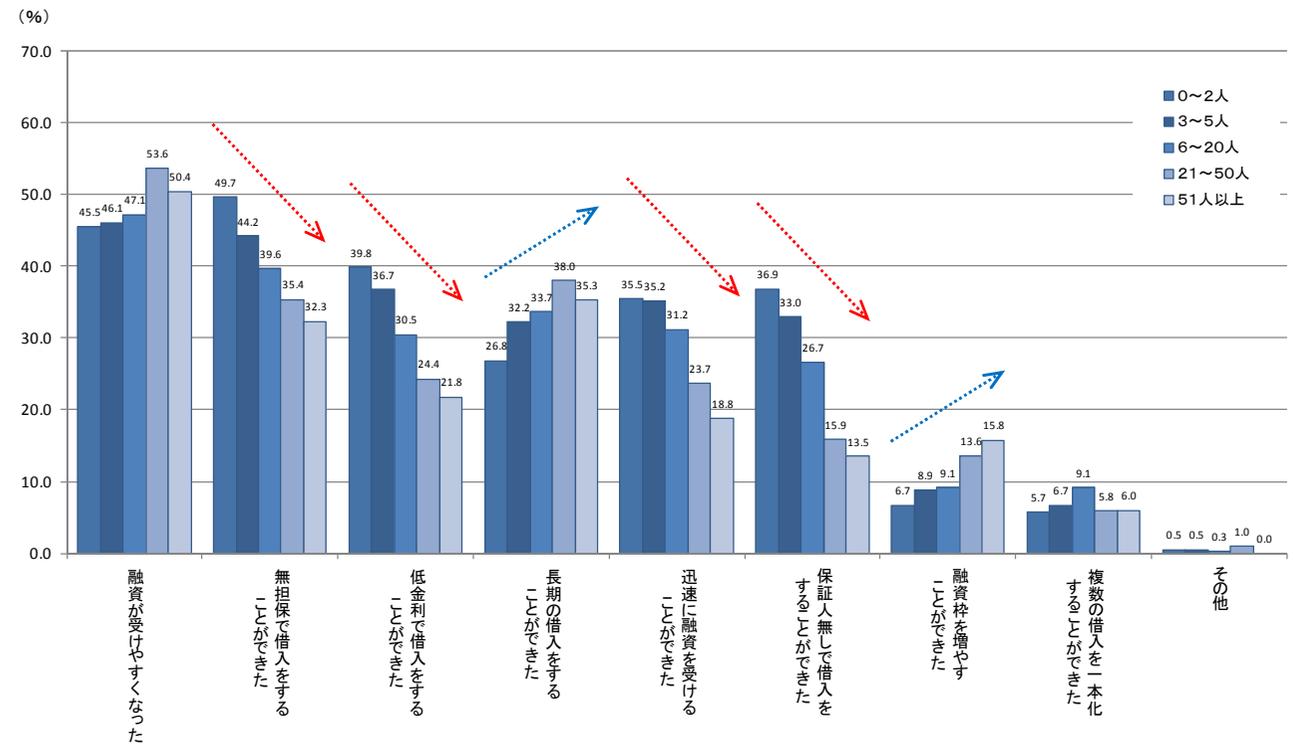
## 1. 信用保証協会を利用する際のメリットについて

- ・信用保証協会を利用する際のメリットについては、「融資が受けやすくなった」、「無担保で借入をすることができた」が多い。次いで、「低金利で借入をすることができた」、「長期の借入をすることができた」、「迅速に融資を受けることができた」、「保証人無しで借入をすることができた」と続いている。
- ・従業員規模別にみると、規模の小さな企業ほど「無担保で借入をすることができた」、「低金利で借入をすることができた」、「迅速に融資を受けることができた」、「保証人無しで借入をすることができた」の回答割合が高い傾向。一方、規模の大きな企業ほど「長期の借入をすることができた」、「融資枠を増やすことができた」の回答割合が高い傾向。

(1) 信用保証協会を利用する際のメリット



(2) 信用保証協会を利用する際のメリット(従業員規模別)



(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。

(注) 複数回答のため、合計は100%を超える。

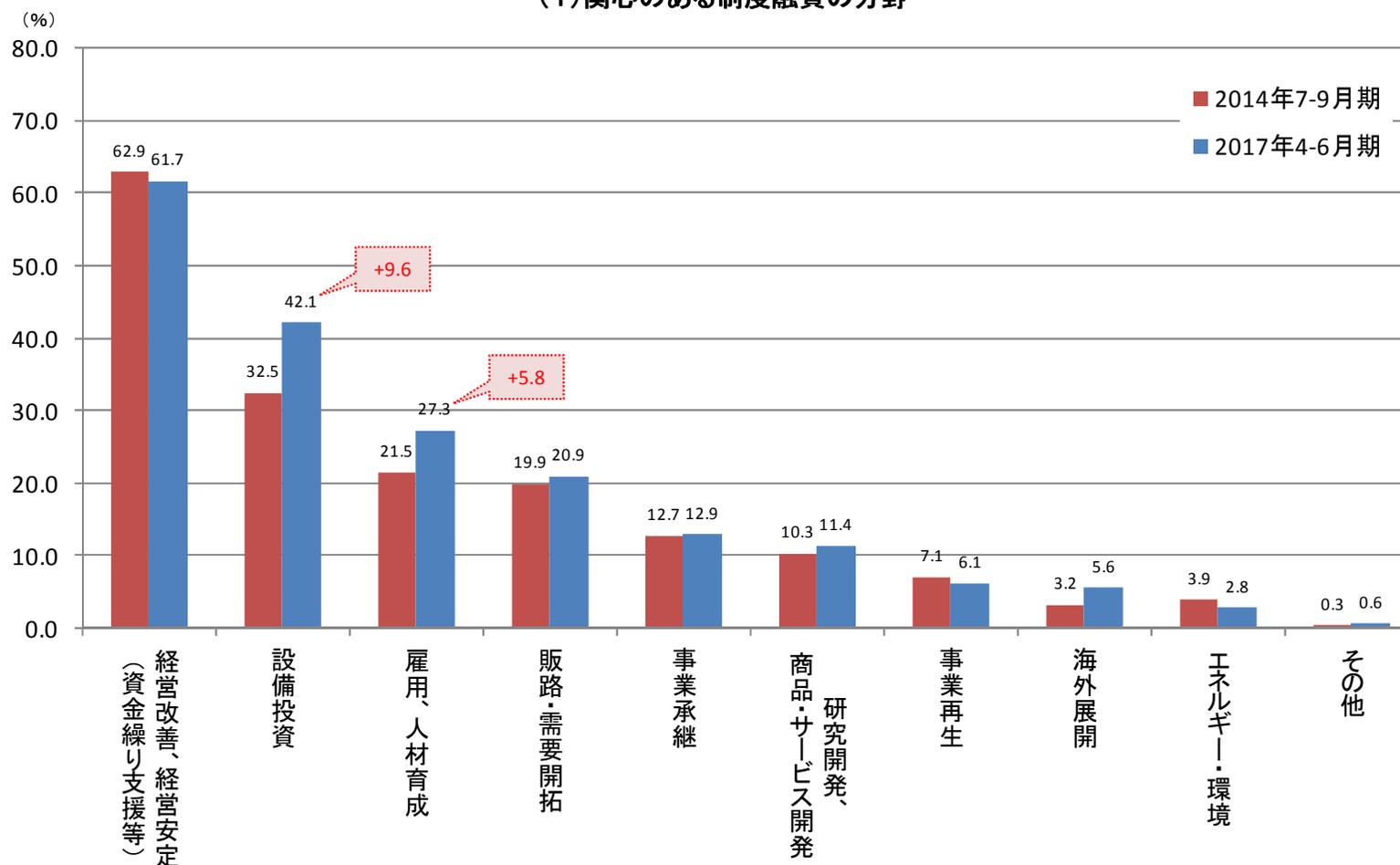
## 2. 制度融資について

- ・関心のある制度融資(注)の分野については、「経営改善、経営安定(資金繰り支援等)」が最多、次いで、「設備投資」、「雇用、人材育成」となっている。

(注)制度融資: 中小企業の経営や成長を支援するため、各地方公共団体が信用保証協会及び金融機関と連携して行っている融資制度

- ・過去調査(2014年7-9月期。2014年9月実施)と比較すると、回答割合の差が最も大きいのは「設備投資」で、32.5%から42.1%と9.6ポイント上昇。次いで、「雇用、人材育成」における回答割合の差が大きく、21.5%から27.3%と5.8ポイント上昇している。

(1)関心のある制度融資の分野



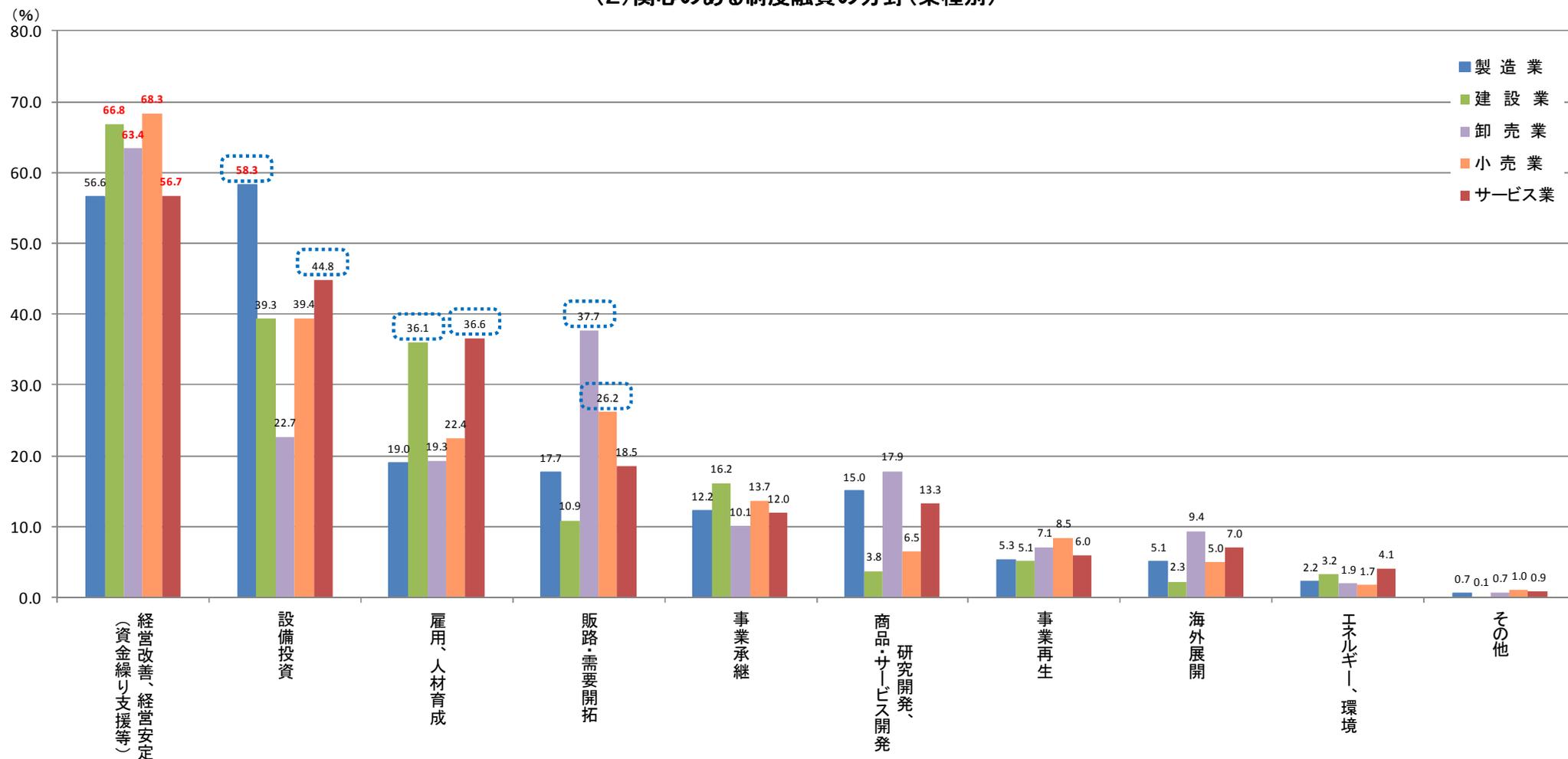
(注1)複数回答のため、合計は100%を超える。

(注2)吹き出しは過去調査との回答割合の差。差が5.0ポイント以上のもののみ表示。

## 2. 制度融資について（つづき）

- ・業種別にみると、「経営改善、経営安定（資金繰り支援等）」は、いずれの業種においても回答割合が高く、製造業以外の業種において回答割合が最多となっている（製造業においては2番目）。
- ・「設備投資」は、製造業、サービス業における回答割合が高く、特に製造業では業種内での回答割合が最多。また、「雇用、人材育成」は、建設業、サービス業において、「販路・需要開拓」は、卸売業、小売業において回答割合が高い。

(2) 関心のある制度融資の分野（業種別）



(注1) 複数回答のため、合計は100%を超える。 (注2) 赤色の数値は各業種において回答割合が最も高かったもの。